＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：善部保育園		種別：認可保育所
代表者氏名：太田恵子		定員（利用人数）： 80名（利用人数：82名）
所在地：〒241-0823　横浜市旭区善部町44-7		
TEL：045-364-5111		ホームページ： https://www.zenbuhoikuen.com
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2011年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人　相愛会		
職員数	常勤職員：15名	非常勤職員：7名
専門職員	（専門職の名称）　　名	
	園長：1名	保育補助：2名
	主任：1名	管理栄養士：2名
	保育士：15名	調理師：1名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室：6室	園庭：有
	トイレ：6箇所	屋外：ソーラーパネル
	調理室：1箇所	
	事務室：1室	
	支援室：1室	
	職員休憩室：1室	

③理念・基本方針

法人理念
子どもが幸せな社会の中で、生き生きと成長していけるように、子どもの最善の利益を追求し、地域福祉の中心的役割を果た
す。

保育目標
①体が丈夫で友だちと元気に遊べる子ども
②友だちや周りの自然を大事に、やさしくできる子ども
③できるようになったことは、最後まで頑張れる子ども
④仲間の中で、自分の意見もはっきり伝えるし、仲間の話も聞き入れ、みんなの力を合わせることができる子どもに
⑤感動し、驚き、疑問を持ち、考えを表現できる子どもに

③ 施設・事業所の特徴的な取組

善部保育園の特徴は、木造2階建て、檜にこだわり、広い室内や大きく、解放感のある窓です。法人理念である「子どもが幸せな社会の中で、生き生きと成長していけるように、子どもの最善の利益を追求し、地域福祉の中心的役割を果たす」に基づいて

保育を提供しています。食べさせ方、眠らせ方、運動のさせ方、各年齢らしく育てること、子どもの気持ちの動き、大人の接し方、などに着目をして、保育計画を立てます。保育計画は、乳児・幼児・主担会議等で毎週振り返り、見直しをして質の向上に努めています。リズムを保育に取り入れしなやかな体づくりを目標とし、手先・足先を器用に使い細かい作業を根気強く取り組めるような力を育てたい、と考えています。
咀嚼に重点をおいた献立や素材の硬さや大きさにも配慮し、季節ごとの旬のものを取り入れる等、食事の面からも子どもたちの発達を支えています。
一時保育・長時間保育・障碍児保育を実践しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月15日（契約日）　～ 令和5年2月28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1）積極的に身体を動かす保育をしています

「丈夫な体で友だちと元気に遊べる子ども」を保育目標の第一に掲げているように、身体を積極的に動かすのびのびとした保育を行っています。園は2階建てですが、0～2歳児の保育室はあえて2階にして、日常的に階段の昇り降りを通して、運動能力の向上を図っています。園庭では泥んこ遊びをしたり、園庭や畑でさまざまな野菜を栽培して収穫を楽しんでいます。乳児から手先を使った活動を取り入れ、編み物、糸とおし、雑巾縫いと段階的に行っています。また身体と感性を育てるリズム活動に力を入れています。5歳児は9月に高尾山、3月には大山の山登りにチャレンジしています。

2）保育の質の確保/向上に向けて力を入れています

一人ひとりの子どもに寄り添う保育を行うために、円城寺式乳幼児分析的発達検査法などの手法を入れ、すべての子どもの発達状況を年4回確認し、指導計画に反映させています。また、子どもが描いた絵を発達順に掲示して観察し、絵を通して子どもの状態や発達状況をつかむ力をつけるという、工夫した研修を行っています。保育では、毎日、毎月、毎年振り返りを行い、保育士の自己評価を年2回実施しています。また、保育目標に到達するための課題を書き出していく「曼荼羅チャート」の作成に職員が取り組み、課題が到達できたかを毎年振り返って、園の自己評価につなげています。保育の質の確保、向上に向けて工夫した取組をしています。

3）調理・保育職員が連携して安心/安全な食事提供と食育を推進しています

自園調理により、国産で添加物のない旬の魚や野菜など食材の調達に努めています。また素材本来の旨味を活かす出汁や調理法や、咀嚼に重点を置いた献立や素材の硬さ、大きさの工夫により、おいしく安心安全に食べられる食事を提供し、子どもの発達を支えています。調理職員は頻繁に食事場面を巡回すると共に、献立の準備段階から保育士と連携し、子ども一人ひとりの発達、体調、咀嚼や嚥下の状態、嗜好等を把握しています。毎月調理職員と保育士による食育会議を開いています。課題があれば会議を待たずに相談し合い、速やかに献立や調理方法の工夫・改善を図るなど、職員全体で協力し、食育に取り組んでいます。

４)将来のビジョンを中・長期計画として具体化していくことに期待します
園の経営、保育目標を実現するため毎年の予算が適切に執行され、毎年の事業計画も着実に実行しています。園の中・長期のビジョンとして、今後の園を担っていく人材育成や、地域とのつながりをさらに強く広げていくことなどを考えていますが、中・長期事業計画として策定されていません。毎年の事業計画を積み上げていくとともに、中・長期のビジョンをいっそう具体化し、毎年の計画の中に落とし込んでいき、着実に目標を実現できるような取組に期待します。

5)コロナ禍における保護者とのコミュニケーションの改善が課題です
コロナ禍により、保育園の取組にさまざまな影響が生じています。クラスでの子どもの様子を見る機会が少ないことや意見を言いやすい雰囲気、担任とのコミュニケーションの機会が少なくなったことを懸念する声が保護者や職員から挙がっています。保護者からの意見を得る機会が減少しています。コロナ禍が長期化する中で、保護者とのコミュニケーションをどのように改善していくか、一層の工夫が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

三度目の第三者評価受審にあたり、まず取り組んだことは、マニュアルの確認や書類の整理です。そして全職員が法人の基本方針や思いを理解し、保育を行なう上で大切な事を周知して保育に望めているかを再確認しました。
今回のアンケート結果を受けて、一人一人自分自身の振り返りを行ない、職員同士で改めて話し合いの時間を持ちました。
第三者評価を経て、さらに保育を高めていく事の必要性として、１．保護者支援、２．保育の質、３．書面化の重要性について、最も強く感じられ改善に向けて今後取り組んでいきたいと考えております。
子どもたち、保護者にとって安心して過ごせる場所であるために、これから日々、職員で考え進んでいきたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり